

## 平成26年度第2回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	平成26年6月5日（木）午後2時00分～午後3時50分	
会 場	新潟市役所本館6階 第4委員会室	
出席者	出席委員	松原会長、山賀副会長、菊野委員、柴田委員、高橋若菜委員、渡邊委員、伊井委員、飯島委員、石井委員、高橋まゆみ委員、中澤委員、八子委員 計12名  (欠席 窪田委員、菅谷委員、高橋善輝委員)
	事務局	環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、 廃棄物施設課長 ほか
	オブザーバー	環境政策課環境企画係長、市民協働課主幹
主な議事	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 平成26年度第1回清掃審議会の照会票について</p> <p>(2) 市民アンケートの修正について</p> <p>(3) 市民還元事業検証による評価の報告について</p> <p>(4) 市民還元事業検証結果のとりまとめについて</p> <p>3 連絡事項</p> <p>4 閉会</p>	
主な議題	<p>&lt;審議の進め方&gt;</p> <p>それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。</p>	

＜議題＞（主な意見等）

（１）平成２６年度第１回清掃審議会の照会票について

なし

（２）市民アンケートの修正について

- 資料２のＰ５の事業一覧について、前回の資料では事業数が１４項目だったが、今回の資料では１５項目になっている。増えた分は「低炭素型ライフスタイル市民アクション応援事業」だが、この事業内容を教えてほしい。

市～ アンケートにおいて、事業内容には触れていない。２６年度市民還元事業の詳細の説明については、この場ではご容赦願いたい。

（３）市民還元事業検証による評価の報告について

- 分別意識の向上と啓発におけるマイボトルキャンペーンに関連して、公民館などの市民活動で紙コップなどをたくさん使っている。こういったことにマイカップを使うなどの指導はしているのか。

市～ 特別の指導はしていないが、今後リユースカップの普及などを進めていきたいと考えている。

- クリーンにいがた推進員育成事業について、市民にはあまり知られていないと思う。PRが足りないのではないか。

市～ 平成２０年度から実施している事業。推進員の方に緑色のベストを着用し分別指導をするなど、地域の方の目に留まっていると思う。ただし、すべての市民がこの制度を知っているわけではないため、周知はもっと工夫する必要があると認識している。

- 使用済小型家電の回収について、障がい者団体と連携しているということで、そのあたりを詳しく教えてほしい。また、２７年度以降は拠点を増設しないというが、市民への啓発を独自予算でやるのか。

市～ 市内を２つのエリアに分け、一方を民間リサイクル業者、もう一方を障がい者団体に委託し、回収と選別・分解作業をお願いしている。障がい者団体では、分解作業を障がい者の方々に担っていただいている。今後の予算については、小型家電の売払い収入があるため、その予算内で広報などを行うということ。

- 古紙の集団回収について、こういった基準で奨励金を決めているのか。

市～ 自治会町内会での集団回収では６円/kg、行政収集では３円/kgの奨励金を支払っており、集団回収は申告により回収量を把握している。一方、行政収集は収集委託業者からの報告によって把握している。

- 環境教育実践協力校について、指定校数は年々増えているが、小学校、中学校、高校が対象になっているか。その母数はどの程度か。

市～ 対象は小学校である。母数は市内全部で約１１０校。

	<p>○ 地域活動補助金について、具体的にどのようなことに活用されているのか。</p> <p>市～ 地域福祉では、高齢者の見守り事業、健康体操など。防犯であれば、防犯パトロール、安心安全マップの作成補助。環境では地域の清掃活動への支援など、多種多様な地域の活動に補助している。</p> <p><b>(4) 市民還元事業検証結果のとりまとめについて</b></p> <p>○ <b>資料3</b> 1 (1)、有料指定袋の価格の現状について、「市民還元事業のうち、一般財源で行うべき事業があり」との意見があるが、どういった事業のことを指しているのか。</p> <p>市～ 議会からの意見として、有料化以前に一般財源で行っていた事業を、審議会の意見を踏まえ有料化財源で行うようになったものがある。その従前まで一般財源で行っていた事業のことを指している。</p> <p>○ <b>資料3</b> 2 (3) について、基金は創設すべきだと考える。デメリットとして、基金が不足した場合に一般財源からの繰り入れができなくなるということだが、不足する場合は支出の節減など使い方を工夫すればいいと思う。</p> <p>市～ ご意見として承るが、実際基金を創設するにあたっては、財務課との協議など十分な調整を行う必要がある。また、特定の目的をどうすればいいかということも研究しなければならない。環境分野だけでなくもっと広げるのか、といった様々な議論が必要と認識。</p> <p>○ 基金の創設について、どのようなプロセスで考えているのか。スケジュール感なども教えてほしい。今年度中に結論を出さなければならないのか。</p> <p>市～ 環境部だけでなく、財務課や還元事業を実施している課などとも慎重に協議しなければならないと考えている。現時点では、清掃審議会での意見もいただきながら、今後の具体的な検討とさせていただきたい。いつまでに結論を出すかについても、今のところはっきりと決めているわけではない。</p> <p>○ <b>資料3</b> 2 (4) について、調査研究を還元事業に加えることについては賛成である。技術的なことだけでなく、ごみ分別行動における市民の生活スタイルの影響など、社会科学的な視点の研究も視野に入れてほしい。</p> <p>市～ 前回の審議회를踏まえ、調査研究というものを挙げさせてもらった。ご意見を踏まえ検討を進めていきたい。</p>
傍聴者	2名